

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年3月31日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21590712

研究課題名（和文）職場における非正規雇用と健康影響に関する研究

研究課題名（英文）Research on the impact of precarious employment contract on workers' health

研究代表者

鶴ヶ野 しのぶ (TSURUGANO SHINOBU)

帝京大学・医学部・リサーチフェロー

研究者番号：10359630

研究成果の概要（和文）：わが国で増加している非正規雇用（パート、アルバイト、派遣社員、嘱託その他）が労働者の健康に及ぼす影響を明らかにするため、非正規雇用者の健康に関する国内外の先行研究をレビューし、非正規雇用者の健康状況や医療関連行動に関する実証研究、および事業所の健康診断及び公的統計データを用いた疫学研究を行った。その結果、概して非正規雇用は健康状態が不良であること、労務上のけがが多く、医療へのアクセスに限りがある傾向や病気による休職や欠勤が正規雇用者とは比べ少ないこと等が認められた（レビュー）。また心身の症状が多く、通院を中断したり労災申請が行えない事例が多く、医療保険未加入や健康診断が未受診となるリスクが高いとの知見を得た（実証研究）。さらに、非正規雇用者の就労ストレスは正規雇用者と質的に異なること、フルタイムの非正規雇用者では不安・抑うつや喫煙リスクが高いこと、2000年前半労働者の主観的健康感が悪化した事などが明らかとなった（疫学研究）。

研究成果の概要（英文）：Recent studies suggest that unstable employment contracts may affect the health of workers. We investigated the health status of Japanese workers with precarious employment contracts (part-time, dispatched, and contract/non-regular workers, etc.) to that of permanent workers using the previous researches, interviews, health examinations and national statistics. As a result, the followings were clarified: Precarious workers often have poor health status, fewer sickness absences and injuries related to labor affairs (literature review); precarious workers tend to have subjective symptoms, there are many cases where they discontinue hospital visits or where they cannot apply for workers' accidents compensation, and they tend to have being uncovered by health insurances or not receiving medical examinations (interviews); full-time precarious workers have higher risk of suffering psychological distress and smoking habits, and that workers' self-rated health deteriorated during the first half of the year 2000 (epidemiological studies).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：社会医学・公衆衛生学・健康科学

キーワード：非正規雇用、健康影響、健康格差、疫学研究、主観的健康感、健康診断、メンタルヘルス、喫煙

1. 研究開始当初の背景

わが国の労働者の雇用環境は近年大きく変貌し、平成19年時点での非正規雇用者（パート、アルバイト、契約社員、派遣社員）は全雇用者の33%（1732万人）で、過去10年間一貫して増加している（労働力調査）。またわが国で年収200万円以下の給与所得者は22.8%（1023万人）に達し、それらの多くは非正規雇用労働者である。法規制緩和の結果、彼らは正規雇用者と同等の業務負荷を担い、雇用継続に伴う心理的圧力を受け、心身両面での健康障害を受けやすいことが指摘されている。

近年の労働者の健康問題として、過重労働による心疾患・脳血管障害、うつ病などがクローズアップされているが、これらには個人の生活習慣のみならず、雇用形態を含む労働環境が影響を及ぼしている。非正規雇用労働者を対象とした先行研究より、非正規雇用者と正規雇用者とは健康状態および生活習慣や健康関連行動に違いがあり、それらが生活習慣病やメンタル関連疾患などの発症因子として作用する可能性がある。現在、非正規雇用者は35歳未満の若年層を中心に増加しているが、今後も雇用の流動化が継続すれば各年齢層での非正規雇用が増加し、生活習慣病やうつ病等の健康障害の発生頻度が増加する可能性が高い。

わが国では、雇用形態と健康についての研究は立ち遅れているが、不安定雇用が労働者の健康に与える影響について調査・検討することは、少子高齢化が進行するわが国においてきわめて重要な意味を持っている。

2. 研究の目的

本研究では、不安定雇用の健康への影響について身体・心理面の双方から検討する。正規・非正規雇用者の健康状態とその背景因子を探る学術研究を通して、わが国の労働市場の現状で実施可能な産業保健活動のあり方を提示することを目的とする。

本研究は、非正規雇用者のみならず国民全体の将来的な健康問題の発生予測や予防につながると考えられ、本研究で得られた結果は、産業保健分野以外にも臨床医学、労働経済や少子高齢化問題等に関連した法社会学領域、国民衛生に関連する政策上の資料となることが期待される。

3. 研究の方法

非正規雇用者は一定の職場にとどまりにくく、産業保健活動の対象から外されている事業所も多いため、職域の健康診断データや労働統計のみで非正規雇用労働者の健康状況を評価することは困難である。また「非正規雇用」に関する呼称や定義が国や資料によ

って異なるため、結果の一元的な解釈が困難という問題点がある。これらを踏まえ、以下の方法で研究を進める。

1) 文献調査(レビュー)

雇用形態に関する既存の資料・文献のうち健康に関連するものを分類・整理し研究を進めるにあたっての指標とする。

2) 調査研究(実証研究)

非正規雇用者の健康について実態調査を行い、現状での問題点を明らかにする。

3) 疫学研究

労働者の健康情報、および雇用形態を含む就労因子や所得などの社会経済因子が含まれる資料（既存の統計資料等）を検索し、それらを用いて労働者の健康を雇用形態別に比較し、不安定雇用が影響を及ぼす健康指標を調べるとともに、それらに関連する関連因子についても明らかにする。

4. 研究成果

① 既存研究のレビュー

非正規雇用に関連するキーワードをもとに、MEDLINEと医中誌webより文献を入手し非正規雇用の定義、主な研究結果について整理して分析した。その結果、概して非正規雇用で健康状態が不良であると結論づけた研究が多くみられた。その他医療へのアクセスについて限りがある、という傾向や正規雇用者と比べ病気による休職や欠勤が少ないという傾向が認められた。

② 非正規雇用労働者への聞き取り調査

2009年に起きた非正規雇用者の大量解雇（派遣切り）により発生した「年越し派遣村」の元労働者96名への健康調査を行った。その結果、これらの労働者では心身の症状が多く、傷病に対し受療を中断したり労災申請が行えなかった事例が多いこと、医療保険未加入や健康診断が未受診である割合が常用雇用者より顕著に高いことが判明した。

③ 疫学研究

1) 事業所内健診データを用いた横断研究

某事業所の研究職の健康診断データを用いて、非正規雇用(任期制)と正規雇用(終身制)におけるメンタルヘルスの状況について雇用形態別に比較した。その結果、仕事ストレス(Effort-reward imbalance)の強度は終身制雇用者の方が強いものの、それらの構成因子は雇用形態によって違いが認められた。また事業所内クリニックの利用状況についても違いがみられ、任期制研究者ではメンタルヘルスに起因した受診率が高いこと

が認められた。

- 2) 国民生活基礎調査を用いた横断研究
厚生労働省より目的外使用の承認を受けた国民生活基礎調査の単年度(2007年)データを用いて、非正規雇用者の健康状況を正規雇用者と比較した。その結果、非正規雇用者は主観的健康感や有症率、不安・抑うつ状態、喫煙率等が正規雇用者より高く、特にフルタイム労働に従事する非正規雇用者では不安・抑うつや喫煙のリスクが高かった。
- 3) 国民生活基礎調査を用いた縦断的研究
同調査の多年度データ(2001, 2007年)を用いて、労働者の主観的健康感、有症率および通院率を Age-Period-Cohort モデルを用いて解析した。その結果、観察期間中労働者の主観的な健康感や有症率は悪化しており、特に正規雇用者での悪化が顕著であったが、これらの変化には非正規雇用の増加に伴う正規雇用者への業務負荷の増大等の就労環境の変化が関連するものと考えられた。

④研究結果の国民への公開、啓蒙

上記の結果は学術雑誌や学会で発表するとともに、市民を対象としたシンポジウムを開催して非正規雇用問題に取り組む様々な団体と情報を共有し、効果的な取り組みについて議論を行った。また国民へ広く啓蒙することを目的に出版物(非正規雇用と労働者の健康)を刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① Nishikitani M, Tsurugano S, Inoue M, Yano E. Effect of social inequality on workers' health in a Japanese national survey. *Soc Sci Med.* 査読有、2012、(E-pub ahead of print)
- ② Tsurugano S, Inoue M, Yano E. Precarious employment and health: analysis of the comprehensive national survey in Japan. *Ind Med.* 査読有、2012 (advanced publication)
- ③ 井上まり子、錦谷まり子、鶴ヶ野しのぶ、矢野栄二、非正規雇用者の健康に関する文献調査、産業衛生学雑誌、査読有、53巻、2011、117-139.
- ④ Inoue M, Tsurugano S, Nishikitani M, Yano E. Effort-reward imbalance and its association with health among permanent and fixed-term workers. *Biopsychosoc Med.* 査読有、2010、4(1) : pp.16

(E-pub)

⑤ Inoue M, Tsurugano S, Yano E. Job Stress and Mental Health of Permanent and Fixed-term Workers Measured by Effort-reward Imbalance Model, Depressive Complaints, and Clinic Utilization. *J Occup Health.* 査読有、2010、53(2) pp.93-101

⑥ Inoue M, Tsurugano S, Yano E. Effort-reward imbalance and its association with health among permanent and fixed-term workers. *Biopsychosoc Med.*, 査読有、2010 (4) pp.16-22.

⑦ 鶴ヶ野しのぶ、井上まり子、中坪直樹、大井洋、矢野栄二、年越し派遣村村民の健康、産業衛生学雑誌、査読有、51巻、2009、15-18

[学会発表] (計13件)

① Yano E, Kachi Y, Tsurugano S, Nishikitani M, Inoue M. Precarious employment and health of workers. 30th Congress of the International Commission on Occupational Health (ICOH), 2012.3.18 Cancun, Mexico

② 井上まり子、非正規雇用と健康格差、第4回「社会階層と健康」定例研究交流会、2011年7月、東京。

③ 井上まり子、鶴ヶ野しのぶ、錦谷まりこ、矢野栄二。国民生活基礎調査から見た労働者の健康(2):フルタイムで働く非正規雇用者の健康診断受診行動。第84回日本産業衛生学会、2011年5月、東京

④ 錦谷まりこ、鶴ヶ野しのぶ、井上まり子、矢野栄二。国民生活基礎調査から見た労働者の健康(1):健康状況の年次比較。第84回日本産業衛生学会、2011年5月、東京

⑤ 鶴ヶ野しのぶ、錦谷まりこ、井上まり子、矢野栄二。国民生活基礎調査からみた労働者の健康:メンタルヘルスの年次比較。第84回日本産業衛生学会、2011年5月、東京

⑥ 錦谷まりこ、中尾睦宏、鶴ヶ野しのぶ、矢野栄二。就業女性と専業主婦の主観的な健康状況の比較。第69回日本公衆衛生学会、2010年10月、東京

⑦ 井上まり子、鶴ヶ野しのぶ、錦谷まりこ、矢野栄二。雇用形態別にみる労働者の健康診断・がん検診受診状況 国民生活基礎調査より。第69回日本公衆衛生学会、2010年10月、東京

⑧鶴ヶ野しのぶ、井上まり子、錦谷まりこ、
矢野栄二. 非正規雇用者のメンタルヘルス—
国民生活基礎調査より—第 69 回日本公衆衛
生学会、2010 年 10 月、東京

⑨鶴ヶ野しのぶ、井上まり子、矢野栄二. わ
が国の非正規雇用の健康状況—平成 19 年度
国民生活基礎調査より. 第 83 回日本産業衛
生学会、2010 年 5 月、福井市

⑩鶴ヶ野しのぶ、井上まり子、矢野栄二. わ
が国の非正規雇用の健康状況. 第 4 回非正規
雇用研究会、2010 年 5 月、福井市

⑪井上まり子、鶴ヶ野しのぶ、矢野栄二. 雇
用形態別のうつのスクリーニング結果と診
療所受診状況. 第 82 回日本産業衛生学会、
2009 年 5 月、福岡市

⑫鶴ヶ野しのぶ. 非正規雇用と健康—派遣村
と世界の状況. 82 回日本産業衛生学会、2009.5
月、福岡市

⑬鶴ヶ野しのぶ. 非正規雇用と健康—派遣村
と世界の状況. 公開シンポジウム「世界と日
本の非正規雇用と健康」、2009 年 4 月、東京

[図書] (計 1 件)

- ① 矢野栄二、井上まり子 (編)、非正規雇用
と労働者の健康、労働科学研究所、川崎、
2011、全 344 頁.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

<http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~hph/index.htm>

<http://plaza.umin.ac.jp/hiseiki/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

鶴ヶ野しのぶ (TSURUGANO SHINOBU)
帝京大学・医学部・衛生学公衆衛生学・リ
サーチフェロー 研究者番号：10359630

(2)研究分担者

井上まり子 (INOUE MARIKO)
帝京大学・医学部・衛生学公衆衛生学・助
教 研究者番号：20508048

矢野栄二 (EIJY YANO)

帝京大学・医学部・衛生学公衆衛生学・教
授 研究者番号：50114690

(3)連携研究者

該当なし